

第4回
定例会

一般質問

第4回定例会の一般質問は、12月14日、15日の2日間行われ、11名の議員が登壇し、市政全般について質問がされました。

一般質問とは、執行部に対し施策・事業等の現況や将来計画の考え方など、市民に密着した問題をたずねるため行うものです。各議員の質問と答弁の要旨をお知らせします。

写真下部の2次元コードをスマートフォンのカメラ等で読み取ると、録画映像をご視聴いただけます。一般質問の臨場感を体感してください！



阿久津 佳子 議員



超高齢少子化社会の備えについて

問 取り組むべき課題に遺贈寄付と空き家対策がある。①歳入増の手段として遺贈寄付が有益と考えるのがいかがか。②空き家を未然に防ぐ方策検討において、我が家の終活を話し合い、備えをつくるのが大切と考えるのがいかがか。③遺贈寄付と空き家対策に共通することは、相続発生と遺言書を作成する文化の醸成が必要なことである。行政サービスの一つとしての事業展

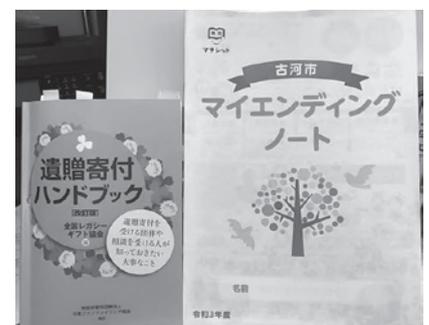
開はいかがか。④市民にとって「その対応や、やり方を知らない、正しい情報を知らない」ということが一番の不利益であり、市民向けの情報発信が有効と考えるが、いかがか。以上、所見を伺う。

答（市長） ①寄付者の思いの実現を手伝えるよう、受け入れる体制を整えたい。③空き家の問題は行政主導での解決が難しい。専門的な知識を有する団体との連携を含め、民間の力を借りながら、課題解決に取り組んでいきたい。④さまざまな機会や手法により情報発信を行い、啓発に努めたい。

答（財政部長） ①遺贈寄付の受け入れは、あらゆる課題を洗い出す必要がある。さまざまな角

度から研究し、体制を整えたい。

答（市民部長） ②空き家の発生抑制のため、親が元気なうちに家族内で対策することは有効な手段と考える。エンディングノート等を活用し、家の終活を考える仕掛けづくりを検討したい。



遺贈寄付と空き家対策の参考図書例
出典：特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会発行
『遺贈寄付ハンドブック改定版』